

市立札幌啓北商業高等学校の取組

1 研究のねらい

今年度ユネスコスクールに認定され、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH) の指定を受けている本校では、商業高校としての特徴を活かしつつ、国際理解の取組を通じ、持続可能な開発のための教育 (ESD) 活動を積極的に取り入れている。

1. 国際理解に関わる取組や授業等の実践交流等

国際理解に取り組んでいる方と交流し、海外の文化や世界の中の日本の役割について理解を深める。国際貢献活動の実践と、そこで得られた気づきの共有へと発展させる。

2. 児童生徒のコミュニケーション能力を養うための外国語教育に係る実践的研究

- ・海外の方々とインターネット等を通じて交流し、コミュニケーション能力を養う。
- ・国際貢献活動への参加を通じて、主体的な学習態度を養う。
- ・国際理解やフェアトレードについての学びや気づきを、仲間と協力して英語で発表する。

2 取組内容

課題：異なる文化や価値観をもつ方々と交流し、自分たちの学びや気づきを共有してよりよい社会へ貢献するために、どのような活動を行えるだろうか。

(1) フェアトレード

地域社会と関わりをもちながら国際貢献できる教育活動ということで、北星学園大学教授・フェアトレード北海道代表萱野智篤先生から実施のアドバイスをいただき、取り入れた。

①学校祭でのフェアトレードのパネル展示及び商品販売ボランティア

事前活動：3学年「英語演習C」の授業にて、SDGs とフェアトレードについて英語の教材を用いて学習した。6月のフェアトレードフェスタ 2018in さっぽろで、1年生と3年生の生徒約10名がボランティアとして活動した。8月には JICA 北海道主催高校生国際協力体験プログラム「伝えよう!SDGs!」へ3年生2名が参加するなど事前に国際協力やフェアトレードについて、学校内外で学んだ。



活動概要：学校祭一般公開日に、札幌市総務局国際部よりお借りしたフェアトレードパネル・資料展示、及びフェアトレード商品(開発途上国の手工芸品・食品)販売を、1年生と3年生が協力して実施した。

事後活動：代表生徒たちと北海道盲導犬協会を訪れ収益金を全額寄付し、盲導犬訓練施設や老犬ホームを見学させていただいた。協会や盲導犬の役割について理解を深めた。フェアトレードの経験を生徒たちがまとめ、ボランティアスピリット・アワードへ応募した。

②インターンシップ

本校では、毎年2年生全員がインターンシップへ参加している。今年度、学校祭で販売したフェアトレード商品を扱っているフェアトレードショップ/カフェが、本校生徒3名をインターンシップ生として受け入れてくださった。フェアトレード商品を使った飲食物を提供するカフェの開店準備と接客、フェアトレード商品の販売促進作業や商品管理など、様々な業務を体験させていただいた。国際理解教育をキャリア教育へと展開する形になった。

(2) 世界を知る

①ジンバブエ文化交流

ジンバブエの伝統楽器であるムビラ演奏家のガリカイ・ティリコティ氏とスミ・マズィタデグル氏により、アフリカ講話とムビラ演奏を通じたワークショップ。グループごとに、講演者へ英語で質問し、ジンバブエの文化について理解を深めた。



②JICA「世界が100人の村だったら」ワークショップ

元海外青年協力隊である大倉綾講師をお迎えし、「世界が100人の村だったら」ワークショップにおいて、体験型学習を通じて世界の問題について学んだ。自分が今後行いたいアクションプラン作成の時間には、フェアトレード商品など人や環境にやさしい商品を選択する、ボランティアに参加する、募金する等のアイデアが出された。

③姉妹都市ポートランド、グラント高校との交流

生徒のホームステイ受け入れや、クラスでの交流、北海道胆振東部地震後に日本語でいただいた見舞いのお手紙への返事を生徒が日英語で書き送るといった交流を行った。

④米国ミネソタ州、サウスウェスト高校とのインターネットを通じた交流

パソコンやスマートフォンを使用し日本語を学習するアメリカの高校生と、自己紹介や好きな音楽など身近な文化について、日英語で投稿した。相互の文化への理解と交流を深め、実践的な英語を読み書する力を向上させた。

(3) 学びを仲間と共有し、自分たちの考えを発信する

国際理解教育活動での学びや、より良い社会のためのアクションプランについて、グループごとに英語でプレゼンテーションを行った。上位3グループが、12月の公開授業日に発表した。仲間と協力して共通の目標を達成する力や英語力の向上、それぞれの活動を通じて得た感想や体験を仲間と共有し多様な考えを受け入れる姿勢を育むことを目指した。

3 成果と課題

(1) 成果

学校外の方々との交流や、皆で協力して参加した国際交流・貢献活動を通じ、生徒の視野や関心が広がり、コミュニケーション能力が向上した。複数の新聞や南区役所ホームページ掲載記事を通して、国際理解教育活動の様子を保護者や地域の方々を知っていただいた。新聞記事を読まれたOGからは激励のお手紙をいただき、三者面談時には家庭内で生徒たちがフェアトレードボランティア活動の経験について家族と話している様子が見えた。また、3学年では、国際理解教育活動での学びや気づきを、将来の進路決定や進学準備に活かしている生徒が多かった。これらの活動は、12月のUNESCOスクール全国大会でのポスター発表や、フェアトレードタウン認定に向けた取組事例として、広く共有させていただいた。

(2) 課題

複数の学年、教職員の協力、地域や保護者からの応援、生徒たちから「これらの活動に参加して人生変わりました。」という前向きな意見を多くもらった。活動に賛同している同僚から来年度も継続しようという意見や、生徒や保護者から「この素晴らしい取組を是非続けてほしい」という要望が多数出ており、取組を継続・発展させていく予定である。